



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

巻頭言 鹿児島県言語聴覚士会 社会局(公共事業・保険担当) 樋渡 健太郎

今号目次

巻頭言	1ページ
参加報告 (体験記)	2-3ページ
訪問リハ アンケート報告	4-8ページ
新人紹介	9-10ページ
事務局通信	11-12ページ
地域局報告	13ページ
学術局報告	14-17ページ
財務局報告	18ページ
社会局報告	19-20ページ
編集男紙	20ページ

日本の人口の年齢別比率が劇的に変化して「超高齢化社会」となり、社会構造や体制が大きな分岐点を迎え、雇用、医療、福祉など、さまざまな分野に影響を与える2025年問題。鹿児島県においても、病床の機能分化及び連携の推進と、住まい、医療、介護、予防・生活支援を一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が進められており、一昨年度より、鹿児島県では効果的・効率的な実施に向け、これまで地域ケア推進リーダー研修終了者かつ地域ケア会議の経験のある専門職アドバイザー(PT、OT、ST)を市町村へ派遣する事業を始めております。市町村では介護予防の為、地域ケア個別会議や介護予防講座(お達者クラブ)を開催し、多職種協働による自立支援・重度化防止や地域課題解決を推進しております。地域リハビリテーション活動支援事業における専門職(アドバイザー)の派遣依頼も年々増加してきており、職場の垣根を超えて、多職種との交流や横断的な活動を行っています。現在、地域リハビリテーション活動支援事業における講師派遣や、初期研修会の企画・実施、研修会修了者の名簿管理など、これまで関連のある担当理事が対応し、理事会を通して密に連携を図っています。しかし、地域リハ関連の相談や依頼は、今後も増加する事が予想されます。そこで令和4年度では、地域リハビリテーション関連における相談や依頼に関して、早急に対応できる新部署の立ち上げと業務の整理、組織図(担当理事)改変など計画しております。

私自身もこれまで地域ケア個別会議に2年間参加させて頂く機会があり、要支援者だけに目を向けるのではなく、日々、支援する家族・地域包括ケアセンター職員に向けて、助言する事もありました。「ことば」や「飲み込み」などの専門職である我々が、要支援者に対して「出来ている事」、「出来る事」つまり、「ストレングス=強み」を見つける事、伝える事が重要です。会議当日はケアマネージャーが作成するケアプランに対して、批判するのではなく、各々の専門職視点での助言(専門用語は控え、できるだけ分かりやすく説明)では実際の生活環境や、これまで事例に上がる要因になったエピソード、要支援者の気持ちも考えて伝えます。各専門職の助言には、私自身もあらためて気付かされる事も多く、病院勤務では得られない貴重な経験の場になっております。今後も地域包括ケアシステムの構築に向け、市町村が介護予防の為、地域ケア個別会議や介護予防講座などを開催し、多職種協働による自立支援・重度化防止や地域課題解決に向けて推進していく事が予想されます。会員の皆様には、地域における医療の状況や社会資源の把握など、患者の退院後の生活や周辺の環境を知る事で、さらに臨床の幅が広がると思います。地域リハビリテーションに興味を持ち、地域に貢献したい方は是非、鹿児島県言語聴覚士会主催の「初期研修」、鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会が主催する「介護予防推進リーダー研修」・「地域ケア会議推進リーダー研修」に参加し、地域のリハ活動に一人でも多く賛同・参画して頂けると幸いです。



★参加報告(体験記)★

第10回 日本言語聴覚士会九州地区学術集会 in 福岡

一人ひとりのコミュニケーションを支える
～言語聴覚士としての責務～

社会医療法人 緑泉会
米盛病院
石原禎人

令和4年1月29・30日の2日間、第10回日本言語聴覚士会九州地区学術集会福岡大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、北九州市の国際会議場とWeb上のハイブリッド開催となり、私はWebで参加しました。今大会は「一人ひとりのコミュニケーションを支える～言語聴覚士としての責務～」をテーマに開催されました。

近年、私たち言語聴覚士は「難聴や認知症の予防に対する支援」や「小児の地域支援」、「失語症のある人への意思疎通支援」など、コミュニケーションに問題を抱える方たちへの支援を、国の施策としても期待されています。

私たち鹿児島県言語聴覚士会においても、介護予防事業としての「お達者クラブ」への講師派遣、「地域ケア会議」への助言者としての参加、失語症のある人の意思疎通支援として「失語症者意思疎通支援者養成事業」の運営等、自治体から要請を受け実施しております。日頃ご協力いただいております士会員の皆様、感謝申し上げます。

現在の言語聴覚士が求められているニーズに沿ったテーマの大会であり、各講演やシンポジウム等で講師や当事者の貴重な講演を聴講する事ができ、私自身学びが深まりました。ご参加された士会員の皆様におかれましても、今後の地域での活動に大いに活かすことができる内容が多々あったのではないかと考えています。今回、本学会に参加したことで、言語聴覚士の起源となっている「コミュニケーション障害」への対応の重要性を再認識しました。

地域でコミュニケーションに問題を抱えて生活されている方たちを、「言語聴覚士として、いかに支援させていただけるか」、当たり前のことかもしれませんが、改めて考えるきっかけとなりました。今後も県士会の立場からも、士会員の皆様にとって有益な情報発信や研修会の企画に努めてまいります。

また、今回は、鹿児島県言語聴覚士会学術局より、「コロナ禍におけるオンラインでの研修会の有用性」に関する発表をさせていただきました。

現在、オンラインでの学会や研修会、会議は当たり前のものとなっていますが、当士会では新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、参集型の研修会の開催が困難となった早い段階からオンラインでの研修会を企画してきました。離島を多く抱えている鹿児島県のような地域では、オンラインでの研修の普及は、学ぶ機会を平等に得られるという視点で大変有用なものだと思います。離島の会員の皆様もこの状況を活かして、どしどし研修会にご参加ください！！

様々な学会や研修会に、移動せずともオンラインでの参加が可能となり、利便性は格段に向上しました。しかし、個人的には会場や懇親会で普段お会いすることのできない他県のSTの方々と顔を合わせることができるのも学会や研修会の楽しみだと思っています。一日も早く新型コロナウイルス感染症と共存した生活が確立し、感染の恐怖を感じることなく、オンラインと現地参加を自由に選択できる時が訪れることを心から願っています。



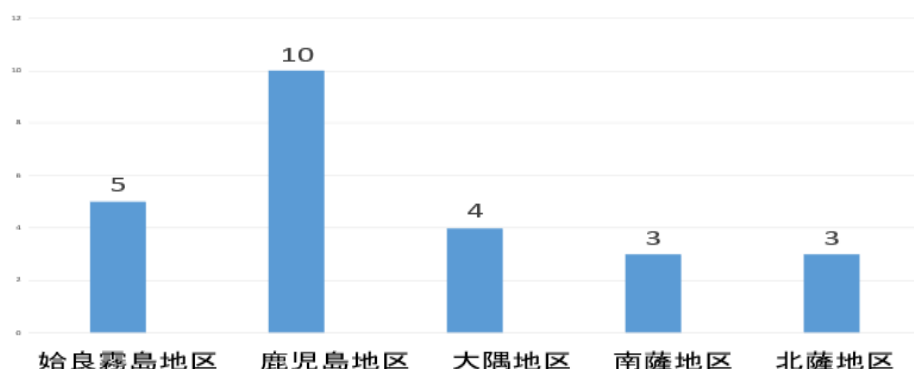
※右の写真は過去大会（コロナ前）の懇親会の写真です。
また、対面開催にて情報交換できる日を心待ちにしております。

令和3年度 鹿児島県訪問リハビリテーションに関するアンケート結果の報告

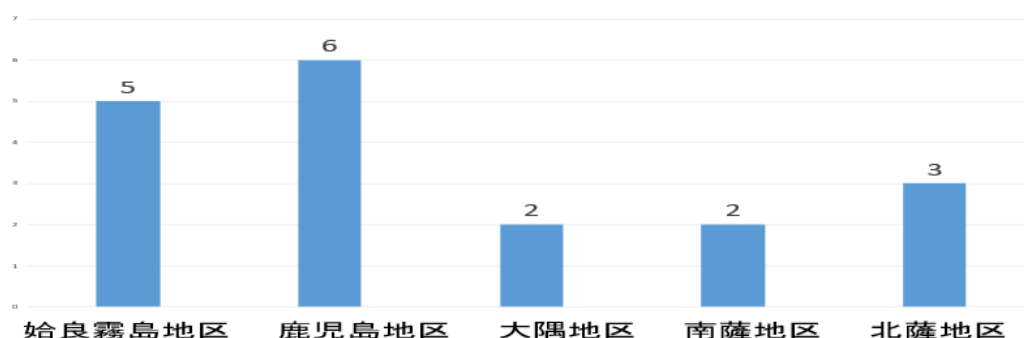
今回、会員の皆様には、訪問リハビリテーション（以下、訪問リハ）に関するアンケートへのご理解とご協力に感謝申し上げます。

さて、訪問リハに関する鹿児島県の調査を平成26年に実施しており、言語聴覚士の訪問リハビリのニーズが高まっており、再度、訪問リハの実施状況を把握したく、アンケートを実施しました。以下にアンケートの結果を報告します。

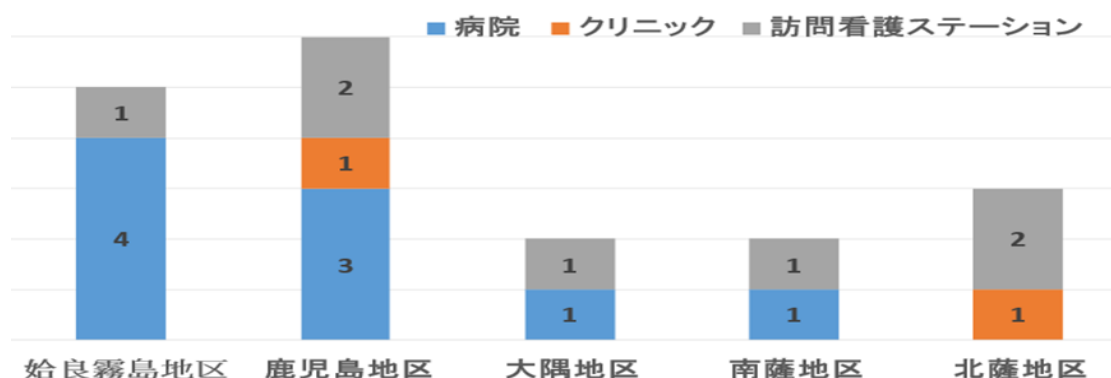
1. 回答のあった施設数 25施設



2. 回答のあった施設のうち訪問リハビリを実施している施設 18施設

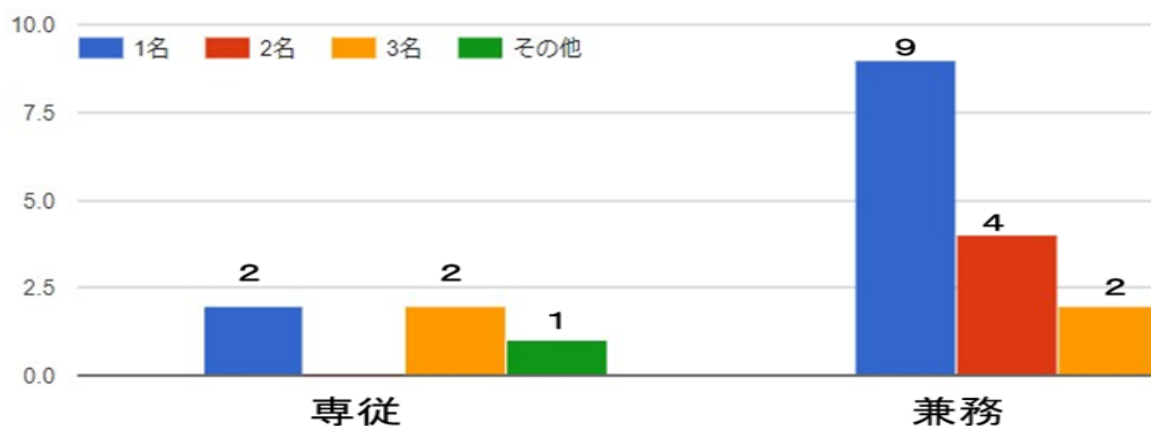


3. 訪問リハを実施している事業所のタイプ



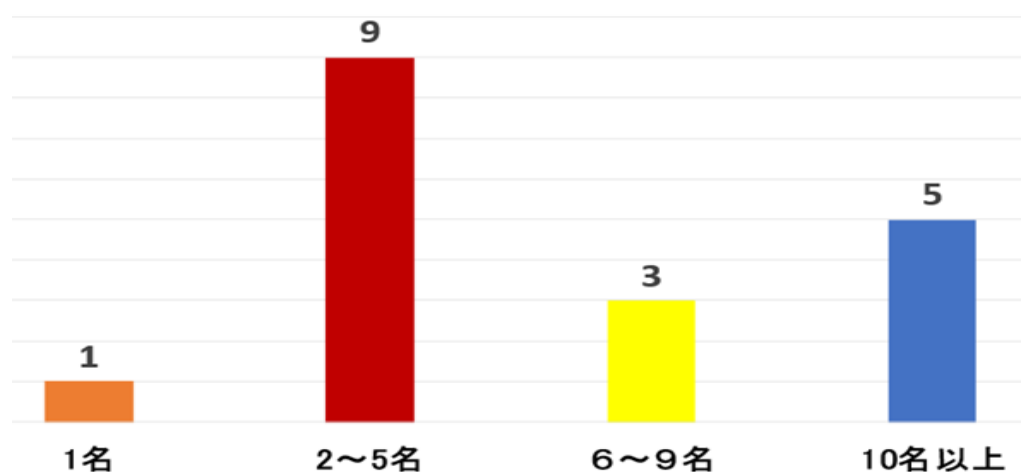
鹿児島県において訪問リハを実施している施設は、病院が9施設、クリニックが2施設、訪問看護ステーションが7施設でした。

4. 訪問リハビリ業務を専従ですか、兼務ですか？



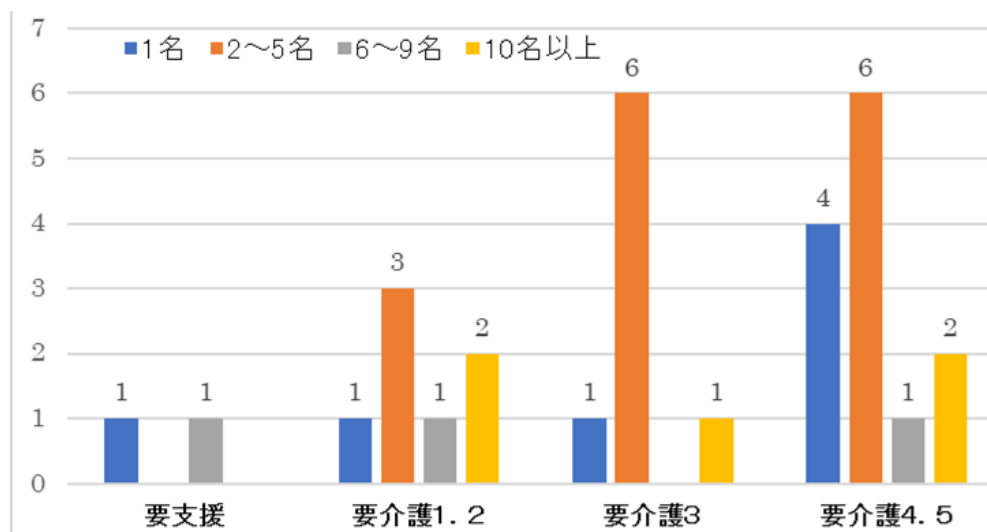
訪問リハビリの専従がいる施設が、5施設あり、兼務がいる施設が15施設であった。また、専従スタッフと兼務スタッフの両方がいる施設が2施設ありました。

5. 利用者の人数は？



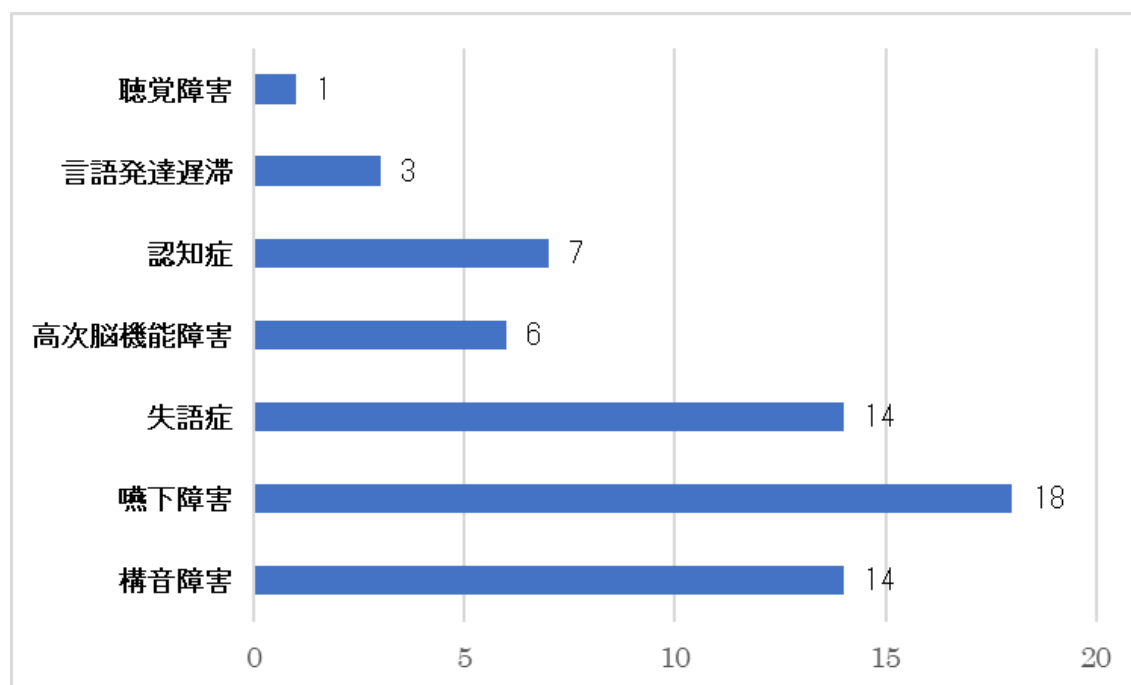
利用者の人数は最も多いのが、2~5名の施設であり、10名以上の利用者がある施設が5施設でした。小児の利用者がいる施設が3施設でした。

6. 各施設における要介護度別の利用者の人数



各施設における要介護度別の利用者は、要支援から要介護4, 5と様々でしたが、全体的には要介護度4, 5の重度な方が多かったです。

7. 訪問リハビリのサービスを受けている利用者の言語障害は？ (複数回答可)



訪問リハビリを受けている利用者の言語障害は、最も多いのが嚥下障害、そして構音障害、失語症でした。

8. 訪問リハビリのやりがいは、どんな時に感じますか？

- 利用者、家族、STがあることで予想しない反応が出たりすることに驚かされる。
- 病院のリハと比較して、密に生活環境下での問題点が浮き彫りとなり、リハビリが必要とされる。
- 患者様の出来なかった事が出来るようになった時。
- 維持期で少ない回数でも症状に変化が出て、改善しているのが目に見えてわかる時。
- 利用者ご本人や介護者であるご家族と自宅ADL上の問題点の解決策について密に話し合える時。
- 急性期、回復期と違う視点で関われるという点で勉強になりますし、面白さ、難しさを感じます。
- 退院後の生活の場への介入には創意工夫の重要性が大きい点と、対象者やご家族との距離も近く感じられる点です。
- 生活に即した対応が取れたとき画一的でない、フレキシブルなリハビリが行えるところ。
- アプローチが生活に直結する。
- 連携機関が多く様々な意見を取り入れて多方面からのアプローチができる。
- 本人、ご家族のサポートを行うことで在宅生活の継続に担える
- 一人ひとりの生活に深く関わることができ、入院中とは違った視点でリハビリを行うところ。
- ご家族と悩みや喜びを共有するとき。
- 他職種と連携し食事が始まったとき。
- 目標が明確である為プランから実施まで全てやりがいを感じ、目標達成を家族と一緒に味わえる
- ご本人だけでなく、ご家庭の方々とのふれあいや、こちらの支援に対して喜んでいただいた時
- 外来や入院と自身のご家庭の方では患者様の心境の変化も感じられると思うから。

9. 訪問リハを実施していない施設において、訪問リハビリの要望がありますか？

訪問リハを実施していない施設は5施設ありましたが、そのうちの3施設で訪問リハの要望があるとのことでした。

10. 訪問リハビリに関することで、ご意見

- 事例を通して他院の取り組みや工夫を知りたいです。
- 訪問系の言語聴覚士の方と横の繋がりを作りたい。
- ケアマネージャーに対して、STの訪問リハの理解を促すような働きかけを強化してほしい。

11. まとめ

今回の調査は、平成26年時の調査に比べ、回答数が少なかったです。しかし、18の施設から訪問リハを実施しているという回答を得ることができました。このことより、鹿児島県において、地域に偏ることなく、各地域で訪問リハが実施されることが確認されました。訪問リハビリを実施している施設数は、前回のアンケートに比べ、1施設増加していました。ただ、前回訪問リハを実施していると回答のあった施設が、今回は回答がなかったことから、訪問リハを実施している施設は増加していると思われる。前回の調査と異なる点としては、1施設の利用者数は明らかに増えています。また、1施設の中で訪問リハビリの専従者が増えており、また、兼務者の人数も増加しています。利用者の言語障害については、嚥下障害、構音障害、失語症が多かったです。

訪問リハビリのやりがいについては、在宅の生活期という利用者、ご家族そしてSTがいる中で繰り広げられる言語聴覚療法の面白さを感じているコメントが多かったと思われます。また、会員の訪問リハビリへの関心が高まっており、アンケートの意見にありましたように訪問リハビリをしている会員のつながりが作られる取り組みを検討していきたいと思います。

令和4年3月
鹿児島訪問リハビリ研究会
リーダー 黒木康

新人紹介 公益社団法人川内市医師会 川内市医師会立市民病院 益 綾来

私は令和3年3月に鹿児島医療技術専門学校を卒業しました。様々な疾患や年齢の方に対するリハビリ経験や症例にチャレンジしたいと思い、地元で多くの診療科を持ち、急性期や回復期、小児外来リハビリテーションも実施している公益社団法人川内市医師会立市民病院に入職しました。

私は急性期病棟に配属され、10ヶ月たった現在、新患対応や脳血管疾患に対するリハビリの経験を通して様々な疾患への対応や予後予測など、知識を増やす事ができました。また症状の改善に携わる事や患者様からの「ありがとう」の言葉を頂き、忙しい中でも多くのやりがいを感じています。

実習期間に経験した臨床とは違うことも多くあり、自分の知識不足も感じておりますが、20代前半～30代前半と年齢も出身校も違うPT4名、OT1名、ST5名と多くの同期に恵まれた為、相談に乗ってもらったり、時には先輩スタッフに優しくご指導頂き、助け合って日々リハビリを行っております。

3月にはWebでの開催ではありますが、原田学園主催の卒業生から在校生までが交流する事の出来る原田カンファレンスが予定されております。私はありがたいことに同窓会18期生世話人メンバーに選出して頂いており、世話人としての務めを担っております。当日は多くの方の症例検討等を聞き、日頃の臨床現場では学べないことを知る機会にしたいと思います。

最後にSTとして2年目になりますが、臨床現場だけではなく、研修等にも積極的に参加し更に知識や臨床能力を身につけ患者様の為に少しでも理想のセラピストになれるよう日々精進していきたいと思っています。



新人紹介

医療法人玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

森山 美佳

私は、令和3年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、4月から医療法人玉昌会キラメキテラスヘルスケアホスピタルで言語聴覚士として勤務しています。当院は、昭和32年に堀江町に創設された高田病院を基礎とし、令和3年2月に高麗町にキラメキテラスヘルスケアホスピタルとして新築移転しました。内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、脳神経内科、リハビリテーション科、泌尿器科（人工透析）、皮膚科を有し、病床数は、回復期リハビリテーション病床35床、地域包括ケア病床35床、医療療養病床128床の計198床となっております。リハビリテーション科には、ST11名、PT33名、OT29名が在籍し、入院患者様だけでなく通所や訪問リハビリも行っています。

社会人経験後、3年間就学し、言語聴覚士として勤務して1年が経とうとしています。『もう1年!?』というのが率直な気持ちです。3月の入職前研修から毎日が緊張の連続で、最初はとにかく3か月頑張ってみようと言い聞かせながら毎日を乗り切ってきました。半年が過ぎた頃、ようやく職場の雰囲気や業務の流れにも慣れ、周囲の状況を見ることができるようになった気がします。もちろん今でも緊張する場面や疑問に思うことが多く、先輩方や他職種の方にご指導頂くことばかりですが、悩んだらまず相談をモットーに日々業務に取り組んでいます。また、患者様に対しては、自分の家族と同じ気持ちで接するように心掛けています。これまで担当させて頂いた患者様には満足して頂けるような訓練プログラムだったのか不安ではありますが、患者様に「話せるようになってきた」と喜んでいただいた時は、大変嬉しく、『これでよかったんだ』と安堵したのを覚えています。今後も多くの患者様に関わらせて頂くことになりますが、『これでよかったんだ』を『これできっと大丈夫』と確信を持って訓練できるように、患者様にたくさん喜んで頂けるように自己研鑽を積んでいきたいと思っています。



事務局通信

県士会ニュース 事務局

9月（オンライン）

- 発達教室「わくわく親子教室」講師派遣（指宿市）について検討され菊野病院に依頼することとした。
- 2021年度学校教育連携担当者協議会参加者に関して検討され松永理事が参加することとした。
- 鹿児島県難聴・言語障害教育研究会（名山小学校）より講師依頼に関して検討され松永理事に決定した。
- 新部署立ち上げについて検討され継続審議となった。
- 令和3年度小児研修会時のパブリックビューイング会場の有無について検討され、パブリックビューイング会場を設けることとした。
- 小児外来対応マップについて検討され継続審議となった。
- 北薩地区研修会について（11月開催予定）について承認された。
- 訪問リハのアンケートについて報告された。
- 慶弔に係る規定について検討された。

10月（オンライン）

- 第2回_地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業 初期研を2月11日（土）開催することが決定した。
- 今後のパブリックビューイング会場設置について検討され、配信会場を設けることとした。
- 訪問リハビリに関するアンケートについて報告された。

11月（オンライン）

- 全国協会創立20周年サイト会員紹介および士会ロゴ紹介に関して検討され、会員紹介は恒心会おぐら病院STに依頼することとし、士会ロゴ紹介は事務局で行うこととした。
- 新部署立ち上げについて承認された。
- 初期研修参加者について報告があった。
- 発達部会大隅地区部員の後任について検討され、松永理事と中野理事で協議後次回以降理事会時に諮ることとなった。
- 県士会会員番号について協会より依頼があった場合、会員に県士会番号を付与することとした。
- 次年度総会について検討された。

12月（オンライン）

- 令和3年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会出席者について検討され、樋渡理事が出席することとした。
- 第10回口腔機能管理推進協議会出席者に関して検討され、原口会長が出席することとした。
- 令和4年度 総会前後の講演会講師について検討された。
- 第2回北薩地区研修会について検討され、1月28日に実施することとした。
- 令和4年3月にポイント取得対象症例検討会（始良霧島地区）を3月11日に実施することとした。
- 九州言語聴覚学術集会・座長について検討され、小牧理事に決定した。
- 地域局大隅担当中野理事退任に伴う後任理事について検討され、瀬崎氏を後任とすることとした。

1月（オンライン）

- 中央ブロック地域ケア会議参加者について検討され、継続審議となった。
- 活動支援金の申請について検討された。
- 総会開催方法について、開催方法は5月15日ハイブリット開催、案内送付は3月中を目指し、総会資料は4月にホームページ上で閲覧（ダウンロード）することとした。

2月（オンライン）

- ホームページ上で、ガイドライン・関連学会の紹介について検討され承認された（掲載方法に関しては継続審議）。
- 発達部会大薄地区部員を恒心会おぐら病院山下氏に依頼することとした。
- 鹿大小児歯科パンフレットの周知について検討され、地域局より配信することとなった。

3月（オンライン）

- 参議院議員候補者について自見はなこ氏を推薦することとした。
- 枕崎市すこやか親子教室・相談事業における言語聴覚士の派遣について、菊野病院に依頼することとした。
- 定時社員総会、新部署立ち上げについて検討された。
- 聴覚部会の活動方針について検討された。

令和4年3月理事会承認 総会員数569名（正会員568名、賛助会員1名）
一般社団法人 鹿児島言語聴覚士協会 事務局 松尾康弘

地域局(南薩地区担当)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき、誠にありがとうございます。地域局理事(南薩地区)の川畑です。

昨年4月にそれぞれの職場に入職された新人STの皆さんも1年が経過し職場の環境や業務に慣れてきたことと思います。新型コロナウイルスの流行により、日々の生活を脅かされ安心できない状況が続きこれまで行えてきた地区での交流や研修会などの活動も減少しましたが、昨年より少しずつですがオンラインにて生涯ポイント取得症例検討会や研修会など開催しております。会員の皆さんの学習の機会もオンライン環境下が増えてきているのではないのでしょうか。現在、各地域局理事とこれまでの経験を生かしつつ定期的な会議を行い、より交流や研修会を提供できるような企画を練っております。オンライン開催ですので、どの地区の会員の皆様も参加しやすい機会を作っていきたいと尽力してまいります。

今後も引き続き県士会の皆様のご意見やご要望など、県士会活動に反映できるように努めて参りたいと思いますので、これからもよろしくお願い致します。

医療法人 昭泉会 馬場病院 川畑 惇



学術局(成人)

知識に基づく理論と技術の体系は、日々進歩しています。

「研究には興味がない」という人もいらっしゃると思いますが、自らが研究を行わないとしても、その成果を活用するのが臨床家であり、目の前にいらっしゃる患者（児）さんたちを「少しでも良い方向へ導くお手伝いがしたい！」それは私達STの共通認識だと思います。

研究成果を活用するためには、論文を読む必要があります。論文の内容を活用するためには、書いてある内容を正しく把握し「分かることと、分からないこと」を理解し、目の前の問題との違いを捉える必要があります。内容を把握するための論文の読み方の1つが「PI (E) CO」を把握する方法です。アブストラクト（要約）には、この内容が含まれる構成になっているものが多いですが、私はなるべく本文を読み進める中で把握するように心がけています。また、発行年数が新しく、かつ査読を受けた論文であればあるほど、序論と考察には自分が知らなかった情報（過去：近年の報告）が引用されていることがあり大変勉強になります。

手元にある論文だけでは情報が限られ、「問題の的を得た論文」がみつからないことがあります。その様な時には、インターネットの検索サービス「医中誌 Web」や「PubMed」を用いて検索します。恥ずかしながら、私は英語があまり得意ではないので、日本語翻訳サービスを多用して論文を読みます。慣れないうちは1本を読むのに相当な時間を要しますが、世界では当たり前（分かっていること）を知ること（解ったつもりになっているだけかも知れませんが・・・）、昨日よりも自信をもってリハビリを提供できていることに気がつきます。

「あなたに担当になってもらえて良かった」とお世辞ながらもおっしゃってくださった方の表情と、その時に感じた高揚感、時を経ても色褪せず私のモチベーションとなっています。私は、目の前の患者（児）さんを少しでも良い方向へ導くことができるSTになりたいのです。そのためにも、根拠に基づいたアプローチが行えるよう、論文を読む（活用する）ことは続けたいと思います。

学術局 成人学術担当
鹿児島大学病院 小倉道広

学術局(小児)

小児学術局では、令和3年12月10日にオンライン研修会を実施致しました。「発達障がいの特徴から考える就労へ繋ぐ支援のポイント」をテーマに社会福祉法人みらい 言語聴覚士の赤壁省吾先生をお招きしてお話をいただきました。発達障がい児・者の就労の現状から制度、またそれぞれの特性に応じた就労までに必要な支援や関わり方のポイントなど実際の場面も交えながらご講演を頂き、（個人的にですが）中々聞く機会が少ない障害福祉での、言語聴覚士の必要性や役割を改めて知ることができた時間となりました。参加された先生方からも「大変有意義な時間でした」「就労にも興味をもちました」などの声も頂きました。令和4年度の学術講習会では、鹿児島大学病院 発達系歯科センター 小児歯科講師 佐藤秀夫先生をお招きして、「発達期摂食嚥下障害への小児歯科からの取り組み」をテーマに講習会を企画しております。佐藤先生は、鹿児島大学病院の「もぐもぐ外来」で子どもの摂食嚥下リハビリテーションに取り組まれており、また離島での発達期摂食嚥下児への支援や連携などにも積極的に取り組まれておられます。小児の摂食嚥下障害に対しても、医科歯科の連携は非常に重要になってきますので、講習会を通して、「歯科との連携」「言語聴覚士同士の横の連携」の一助となる時間になるかと思いますので、多くのご参加をお待ちしています。

学術局では、ご存知の方も多い方と思いますが、「鹿児島発達STネットワーク（LINEグループ）」という情報交換・共有の場があります。小児全般に関する講習会や啓発活動、文献や書籍、TV番組、発達障害プロジェクト等の紹介など、小児に関することを会員の皆さんで色々と情報交換、共有する場としてのツール・活用して頂ければ幸いです。

また、発達部会、聴覚部会とそれぞれ専門の部会があります。聴覚部会では、「聴覚障害児に対するリハビリテーション・発達支援に関するアンケート調査」を実施する予定ですので、その際は、ご協力の程宜しくお願い致します。



ことばの教室そらまめキッズ
松永 宏行

学術局(新人教育)

令和4年3月20日、第20回新人教育研修会を実施しました。
今回は「高次脳機能障害と認知リハビリテーション」をテーマに、加
治木温泉病院言語聴覚士の有川瑛人氏にご講演いただきました。

各種学会や研修会での発表歴も多岐にわたり、養成校等での講師歴
もあられる有川さんのご講演は奥深く、学びを深めることができたこ
とと思います。コミュニケーション障害を生業とするSTにとって、根
拠に根付いた症候学への対応に加え、日常生活を見据えた「高次脳機
能障害」への適切な対応の重要性を再認識することができました。

今回からWebのみではなく、現地参加も可能な「ハイブリッド開
催」としています。今回の現地参加者は・・・0名でした。コロナの
状況やWebでの利便性もあり、現地参加希望者は減少しても仕方がない
と思います。一方、現地参加に関しては、普段会えないSTや養成校
の先生、県士会理事と顔を合わせて交流する貴重な機会にもなると思
いますので、コロナの状況や、各自感染対策の状況にもよるとは思
いますが、現地での参加もご検討してみてくださいはいかがでしょうか？感染
対策万全にお待ちしております！！

今後は皆様のご要望でもある、手技や実技も提供できるオンライン
研修も企画していきたいと思いますので、ご期待ください。

【お問い合わせ・ご要望】

yishihara@yonemorihp.jp

鹿児島県言語聴覚士会学術局新人教育担当
石原あて



学術局(生涯学習)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加・ご協力頂き、誠にありがとうございます。

令和3年9月25日(土)に基礎講座1『臨床のマネジメントと職業倫理』、基礎講座2『臨床業務のあり方、進め方』を講師に株式会社シ・はびねすの西野将太氏をお招きし、WEB開催致しました。基礎講座1では26名、基礎講座2では25名が県内外から参加して頂きました。私は基礎講座1・2を再度聴講させて頂きましたが、日頃の臨床を見直す良い機会になりました。毎年内容も更新されているので、再度受講するのも大切だと感じました。

また、令和4年3月20日(日)は基礎講座3『職種連携論』、基礎講座4『言語聴覚療法の動向』を講師に医療法人 慈恵会城西ナースィングホームの染川眞喜代氏をお招きし、ハイブリッド開催(現地+WEB)予定となっています。現地でもWEBでも参加可能となり、より基礎講座が受けやすい環境となっています。基礎講座の受講が終わられていない方は、今がチャンスです。

ここで少し生涯学習プログラムについて説明させて下さい。日本言語聴覚士協会の生涯学習プログラムは、基礎講座や症例検討などでポイントをためることで修了する「基礎プログラム」と、専門講座や学会参加などでポイントを取得して修了する「専門プログラム」の2種類があり、これらを受け修了証を手にし、臨床経験6年目以上になると、認定言語聴覚士講習会を受講する資格を得られます。私は東京まで3回行き、認定講習会に参加しましたが、2021年度は失語・高次脳機能障害領域、聴覚障害領域が行われ、すべてオンライン参加でした。鹿児島から認定取得するのは今がチャンスなのかもしれません。

いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
リハビリテーション部 尾崎 幸平

TEL : 0993-32-9999 FAX : 0996-32-0496

財務局

会員各位

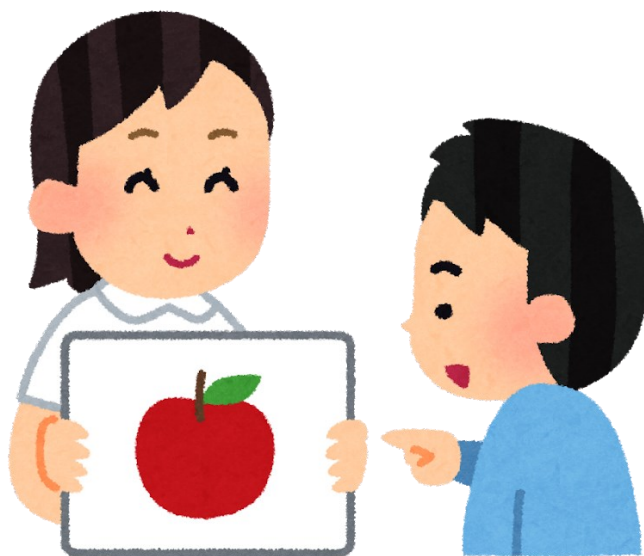
平素より県土会活動にご協力賜りありがとうございます。
財務局担当 無所属 鎮守美和です。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。

まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただきますようよろしくお願い申し上げます。

会費についてご不明な点がある方、口座登録用紙が必要な方は財務局メールアドレスまでご連絡ください。対応させていただきます。

財務局メールアドレス
kago_st@yahoo.co.jp
担当 鎮守美和



社会局(公共事業・保険担当)

今年度、鹿児島県介護実習普及センター主催の介護研修会では、9回開催の予定でした。新型コロナウイルス感染拡大により中止・延期する事がありましたが行行政職員、参加者のご協力と感染症対策の徹底を図り、計5回分の研修会(開催地:鹿児島市2回、南九州市1回、伊佐市1回、大崎町1回)を無事に終了する事ができました。最前線で県民の健康福祉に貢献してくださっている医療従事者、介護従事者に心より敬意を表します。不安な日々を過ごされている皆さまにおかれましても、一日も早い事態の収束を心よりお祈り申し上げます。保険関連では、診療報酬に関する問い合わせが2件でした。

令和4年度の診療報酬改定においては、「早期離床・リハビリテーション加算における職種要件の見直し(言語聴覚士の追加)」、「摂食嚥下支援加算の見直し」、「疾患別リハビリテーション料の見直し(月に1回以上機能自立度評価 FIM の測定している事を要件化)」、「リハビリテーション実施計画書の署名欄の取り扱いの見直し」といった変更がなされ、不明な点も出てくる事が考えられます。診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容の問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会に問い合わせてもらうこととなりますが、疑問を持たれた点を県土会全体で共有するためにも、まずは気軽に県土会に問い合わせさせていただきたいと考えております。

日本言語聴覚士協会お問合せフォーム:<http://www.jaslht.or.jp/form.html>

公益社団法人 鹿児島県共済会 南風病院
リハビリテーション科 樋渡 健太郎

TEL:099-226-9111 FAX:099-805-2509



社会局(広報担当)

コロナ禍も2年以上が経過しました。

感染対策や私たちの生活様式の変化などで、以前に比べるといくらかは対応が取れるようになってきた印象があります（もちろんまだまだ不十分なところもありますが・・・）。

しかしながら、まだ人が集まってのイベントは難しい部分があります。令和3年度も、言語聴覚の日（9月1日）のイベントとして、イオン鹿児島にて「ことばの相談会」を計画していたのですが、実施予定期間が鹿児島県のまん延防止等重点措置期間となり、昨年に引き続き実施は見送らせていただきました。県民の皆様と言語聴覚士や県士会活動について伝えることができるまたとない機会と考えていたのですが、残念でなりません。

しかし残念なことばかりではなく、このコロナ禍になってから、オンライン開催による研修会の案内も増えております（皆さん、ホームページの研修会案内はご確認くださいでしょうか??）。これまで、遠方でなかなか参加が叶わなかったり、家族や子供の行事や対応で参加が難しい・・・など。これまで参加したかったものの、残念ながら諦めなければいけなかった研修会への参加もしやすくなっているのではないのでしょうか。県士会では研修会案内をホームページ上に掲載させていただいております（基本的にはいただいた案内は全てです!）。ぜひ、この機会に有意義な研鑽を積まれることもありかもしれません。なお、県士会ホームページより、いただいた研修会の他、各種お知らせもタイムリーに掲載しております。ぜひ、こまめに確認いただければ幸いです。

今後もホームページやニュースペーパーを通して会員の皆様へスムーズで有意義な案内に繋げていきたいと考えております。また、これまで以上にご協力もいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

鹿児島医療技術専門学校
言語聴覚療法学科 小牧 祥太郎

Tel 099-261-6161 Fax 099-262-5252

☆編集男紙☆

平素より大変お世話になっております。新型コロナウイルスも遷延してから早2年が経過しました。新しい生活様式を余儀なくされている今日この頃、皆様どの様にお過ごしでしょうか。人と手を繋ぐことがまだ当面は出来そうにないですが、Webがメインとなった繋がりも悪い事ばかりではないなと思っている今日この頃です。見方を変えれば、これからの人生の中でこの1つ屋根の下で今のように長い時間を過ごせることなんてないかもしれません。イライラせずになんとかなると構えていたいな—と思っています。

末筆ながら、令和4年度も皆様にとって幸多き1年でありますよう、お祈り申し上げます。